

▽ 柴崎 礼士郎 准教授 SHIBASAKI, Rejjirou

学 科: 英米言語文化学科
 担当科目: 英語Ⅶ(TOEIC)、基礎演習Ⅲ・Ⅳ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、
 英語学特殊講義、日本語現代文法Ⅰ・Ⅱ、
 言語学概論Ⅰ・Ⅱ、国際コミュニケーション論、
 言語学特論Ⅰ・Ⅱ(大学院)

学歴等のプロフィール

①【最終学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

- ① カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校 (UCSB) 大学院言語学科博士課程修了
 ② Ph.D. (言語学)
 ③ アメリカ言語学会、国際言語類型論学会、国際認知言語学会、その他 8 学会
 ④ (1) 国際刊行物査読員 (*Nominalization in Asian Languages, New Reflections on Grammaticalization*,
 (仮題), とともに John Benjamins 社, 2008-2009)
 (2) 「優秀学術奨励賞」(近代英語協会, 2010)
 (3) 国際ワークショップ主催 (*Workshop: Person Forms across Time and Space: Divergence or
 Convergence*, 『第 20 回国際歴史言語学会』(ICHL-20), 国立民族学博物館, 大阪, 2011)

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動・方法の実践例		
1) 卒業論文Ⅰ・Ⅱ	2007-2010	左記 4 年間、卒業論文指導を担当し、毎年論文集を作成した。うち 1 名が他大学大学院への進学を果たした。
2) 基礎演習Ⅲ	2010-2011	就職活動および社会人としての職能技術のために、以下の内容を「キャリア支援課」の担当者からアドバイスを頂き実践している。1)企業分析(項目別)、2)企業紹介のプレゼンテーション、3)質疑応答、等。また、外国語を身につけるための日本語トレーニングを重視した授業を実践している。
3) 英語学特殊講義	2010-2011	アンケートを通して学生の興味を推し量りつつ、社会言語学、認知言語学など、柔軟に対応できる準備を心掛けている。また、新しい内容を提供できるように、テキストは 1~2 年に一度は変えている。

<p>4) 英語Ⅶ</p>	<p>2008-2011</p>	<p>TOEIC 対策用として、テキスト・過去問だけではなく、独自のディクテーション教材も使用。また、ビジネス雑誌等で英語と就職に関する特集がある場合には(プレジデント、東洋経済、等)、適宜コピーを配布している。2011 年度受講者の中から 900 点以上取得の学生が出た。</p>
<p>5) 夏期集中講義世話役</p>	<p>2005-2007, 2010</p>	<p>学生のニーズを鑑み、また学科科目の補填の意味で、異なる分野から集中講義担当者を招いている。これまでに開講された講義内容は、英語教育学(2005)、日本語教育学(2006)、詩学・言語学(2007)、認知言語学(2010)である。</p>
<p>6) 英語検定試験対策講座</p>	<p>2005-2011</p>	<p>左記講座を学内向けに実施。内容は英検準一級向けであり、学生だけではなく事務員の参加もある。</p>
<p>2. 学生支援活動</p>		
<p>1) 学習支援</p>	<p>2008-2011</p>	<p>① 4 年次の学生が多い授業では就職活動を考慮し、中間・期末テストを柔軟に対応した(日時変更など)。 ② オフィス・アワーを週 2 回設定し、学生の授業理解に努めた(2006-2010)。</p>
<p>2) キャリア支援</p>	<p>2009-2011</p>	<p>① 元ゼミ生で社会人の卒業生、あるいは、既に就職活動を終えた 4 年次生を 3 年次生の授業に招いて、就職活動のアドバイスをしてもらった(2009-2011)。 ② 専門演習Ⅰを受講している 3 年次生全員を対象として、就職説明会を実施した(2011)。</p>
<p>3) サークル・部活動</p>	<p>2007-2011</p>	<p>体育会系卓球部の顧問として、全九州大会一部リーグ優勝(女子・2008 年)、および、全国大会出場(女子・2008-2009, 2011 年)を果たした。</p>

<p>3. 学外での教育活動</p> <p>1) 国際誌査読員</p> <p>2) 学会賞受賞</p> <p>3) 国際ワークショップを企画・運営</p> <p>4) 『日本英語学会第 29 回大会』での懇談発表</p> <p>5) 『言語と人間』研究会での集中講義</p>	<p>2008-2011</p> <p>2011</p> <p>2010</p> <p>2011</p> <p>2011</p> <p>2012</p>	<p>① <i>Nominalization in Asian Languages</i> (2011.5 刊行済), <i>New Reflections on Grammaticalization 4</i> (仮題)の論文査読員を担当 (John Benjamins 社)。</p> <p>② 国際ジャーナル <i>CAHIERS DE LINGUISTIQUE - ASIE ORIENTALE</i> の論文査読員を担当 (France 発の国際誌)</p> <p>『近代英語協会』より「優秀学術奨励賞」を受賞した。</p> <p>『第 20 回国際歴史言語学会 (ICHL-20)』にて「Workshop: Person forms across time and space」を企画し採択 (於: 国立民族学博物館, 2011.7)。</p> <p>学会活性化および若手研究者育成を目的として、左記学会にて懇談発表の要請を受けた (採択済み / 於: 新潟大学, 2011.11)。</p> <p>左記研究会にて、若手研究者および大学院生を対象とした集中講義の依頼を受けた (於: 国立女性教育会館 (予定), 2012.3)。</p>
<p>4. 教育改善活動 (FD)</p> <p>1) 教員免許状更新講習運営委員会</p> <p>2) 授業改善計画書</p> <p>3) 大学院改革</p> <p>4) 大学院説明会</p>	<p>2009-2011</p> <p>2010</p> <p>2010-2011</p> <p>2010-2011</p>	<p>副学長からの指名により左記委員を担当。</p> <p>2010 年度に共通英語 I・II が指定科目となったため、アンケートを通じて内省を行った。その結果、難易度の高くない授業内容を求められていること、および、入学時の英語力に大きな差があることが把握できた。</p> <p>多くの問題点があるにもかかわらず改革を断行できなかった過去を直視・反省し、2010 年度より専攻主任を担当。改革に着手し現在も取り組んでいる。</p> <p>英米言語文化学科 3・4 年次生を中心に大学院説明会を実施。</p>

研究業績等

【 最新の研究業績 】

- ① *Japanese/Korean Linguistics 18* (CSLI Publications, 2011, 共著)
- ② 『言語の間主観性－認知・文化の多様な姿を探る』(早稲田大学出版部, 2011, 共著)
- ③ *Formal Evidence in Grammaticalization Research* (John Benjamins, 2010, 共著)
- ④ *Language Change and Variation from Old English to Late Modern English* (Peter Lang, 2010, 共著)
- ⑤ *Studies on Reduplication* (Mouton de Gruyter, 2005, 共著)

研究分野・研究課題

歴史言語学、談話研究、言語類型論

科研費若手研究(B)「主語の情報連鎖機能と談話に関する研究」(2006年度～2008年度)

科研費若手研究(B)「主要部標示型から依存部標示型言語へ」(2010年度～2012年度)

【Eメール・ホームページ等】

reijiro@okiu.ac.jp

平成 23 年 10 月 7 日現在